

巻頭特集

移民社会という選択

—— 日本は労働力不足にどう向き合うのか？

2016 年末現在、日本で暮らす外国人は過去最多の 238 万人で、そのうち仕事に就いている外国人は 108 万人にのぼる。今後もその数は増加の傾向にある。周知のように日本社会では少子高齢化が急速に進んでいる。労働力の不足は各方面で顕在化していて、その不足を補うためにやってくる外国人が数を増やしているのである。従来、日本社会は外国人の定住を嫌ってきた。だから、人手不足を補うための外国人も期限がくれば帰国させる仕組みでやってきた。このやり方は今後も通用するのだろうか。その可能性と現状を検証してみる。



写真は東京新宿のコンビニのレジで先輩スタッフから接客を教わっているベトナム人(右)を撮っている。彼女は働きながら学んでいる留学生だ。いまこうした外国人の就労が急速に増え、日常の風景になってきている。